

令和 7 年度 事業報告

1 事業の概要

令和 8 年 3 月北海道発表の最近の経済動向では、北海道の景気は「持ち直しの動きが続いている」状況ですが、個人消費については「改善の動きに足踏みがみられる」、雇用情勢については「持ち直しの動きに弱さがみられる」という景気動向であります。

社会経済活動は緩やかな回復を続け、賃金や公共事業等の改善が続く一方、インボイス制度による経費負担の増加、フリーランス法の施行や様々な制度の変化がある中、物価高の影響や中東情勢の緊迫化に石油及び関連製品等の供給不安定化なども加わり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

北海道内の雇用情勢については、有効求人倍率は 0.88 倍と前年を 0.07 ポイント下回り、完全失業率は 2.8 % と前年を 0.2 % 増加している状況であり、持ち直しの動きに弱さがみられ、物価上昇等が雇用に与える影響に留意する必要があります。

そのような中で、当センターの派遣事業の契約額は、前年度の「7,919 万円」を「566 万円」上回る「8,485 万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、前年度の「2 億 2,500 万円」を「1,197 万円」上回る「2 億 3,697 万円」となり、請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「3 億 0,419 万円」を 5.8 % 上回る「3 億 2,183 万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「1,089 人」から「1,144 人」と「55 人」の増加となり、目標値である「1,019 人」を上回りました。

請負就業延人数については、目標値の「45,833 人日」を「1,587 人日」下回る「44,246 人日」となりました。

派遣就業延人日については、目標値の「12,183 人日」を「418 人日」上回る「12,601 人日」となりました。

以下、令和 7 年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

2 事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が策定した「新たな仲間づくり計画～10万人の増加を目指して！～」と北海道シルバー人材センター連合会の「第3次中期計画」を踏まえ、目標数を1,019人としていましたが、会員数は目標を125人上回る1,144人を達成しました。

年 度	目標数	会 員 数
令和2年度	809人	860人
令和3年度	855人	890人
令和4年度	904人	950人
令和5年度	956人	993人
令和6年度	1,011人	1,089人
令和7年度	1,019人	1,144人

- ① チラシの新聞折込を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携した就業体験入会説明会及び就業体験を実施し、27人の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図りましたが、退会会員は45人になりました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① 6月にJR駅周辺、9月に野幌総合運動公園の草取りボランティアを実施し環境美化に取り組みました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しをワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事 業 名	開 催 日	場 所	参加人数
草 取 り ボ ラ ン テ ィ ア	6月	野 幌 駅 周 辺	33人
草 取 り ボ ラ ン テ ィ ア	9月	野幌総合運動公園	42人

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和 8 年 3 月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
令和 2 年度	5, 2 6 0 件	5 0, 9 7 5 人日	2 3, 8 2 7 万円
令和 3 年度	5, 1 6 5 件	4 8, 6 6 1 人日	2 2, 4 9 7 万円
令和 4 年度	4, 6 9 8 件	4 6, 4 0 6 人日	2 1, 0 1 6 万円
令和 5 年度	4, 2 1 6 件	4 6, 3 6 0 人日	2 1, 7 9 4 万円
令和 6 年度	4, 2 2 4 件	4 5, 3 8 0 人日	2 2, 5 0 0 万円
令和 7 年度	4, 0 2 5 件	4 4, 2 4 6 人日	2 3, 6 9 8 万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ Smile to Smile の登録促進（令和 8 年 3 月 3 1 日末の登録者数 6 2 5 人）及びスマートフォンの利用に不安のある会員のためにスマートフォン講習会を開催しました。
- ④ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ⑤ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、派遣事業実績は増加し、就業延人数が目標値の 12,183 人日を 418 人日上回り、契約金額も前年度の 7,919 万円より 566 万円増加の 8,485 万円となりました。

(派遣事業実績)

令和 8 年 3 月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
令和 2 年度	4 3 件	1 0, 4 4 6 人日	6, 2 1 3 万円
令和 3 年度	5 6 件	1 0, 3 7 1 人日	6, 2 9 5 万円
令和 4 年度	1 0 1 件	1 1, 3 6 7 人日	7, 3 0 4 万円
令和 5 年度	9 9 件	1 1, 9 6 1 人日	7, 8 4 1 万円
令和 6 年度	1 0 8 件	1 2, 0 6 3 人日	7, 9 1 9 万円
令和 7 年度	9 3 件	1 2, 6 0 1 人日	8, 4 8 5 万円

- ① 市内民間企業や行政等への訪問によって、就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会確保に努めました。

(事業契約実績)

令和 8 年 3 月末現在

年度別	7 年度	6 年度	5 年度	4 年度	3 年度
受託事業	23,698 万円	22,500 万円	21,794 万円	21,016 万円	22,497 万円
派遣事業	8,485 万円	7,919 万円	7,841 万円	7,304 万円	6,295 万円
合 計	32,183 万円	30,419 万円	29,635 万円	28,321 万円	28,792 万円

ウ 技術・接遇等の向上

会員のための視察研修会を開催したほか、刈払機の取扱や冬囲い、刃物研ぎなどの技能講習会を行いました。

講 習 会 名	開 催 日	会 場	参加人数
刈 払 機 取 扱 作 業 者 講 習	4 月 17 日	センター研修室他	34 人
剪 定 技 能 講 習 会	6 月 25 日	センター研修室他	13 人
A E D 講 習 会	4 月～3 月	消 防 本 部	25 人
冬 囲 い 講 習 会	10 月 10 日	湯 川 公 園	12 人
S C 視 察 宿 泊 研 修 会	11 月 27～28 日	函 館 市 S C	18 人
会 員 研 修 会	1 月 23 日	センター研修室	22 人
お 掃 除 講 習 会	2 月 26 日	センター研修室	24 人
公 共 施 設 等 就 業 者 研 修 会	2 月 27 日	センター研修室	21 人
刃 物 研 ぎ 講 習 会	3 月 10 日	センター研修室	15 人
刃 物 研 ぎ 講 習 会	3 月 17 日	緑町老人憩いの家	5 人
刃 物 研 ぎ 講 習 会	3 月 24 日	大麻老人憩いの家	8 人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故 13 件、労災事故 2 件及び損害賠償事故 5 件が発生しました。なお、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の 5 項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。
令和7年度安全標語最優秀賞 「気を抜かず 急がず慌てず ゆとり持ち」
- ③ ヘルメットなど安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和7年度事故概況

(傷害事故 13 件)

(前年度 7 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	75	室内清掃作業	通勤途中、歩道の凍結路面で滑り後方へ転倒。転倒の際、地面についた右手首を骨折した。
女	80	室内清掃作業	通勤途中、横断歩道を渡る際、凍結路面で転倒し右手首を骨折した。
男	92	冬囲外し作業	縄を切る際、誤って左手指先を剪定はさみで切った。傷は縫わずテーピングのみで処置した。
男	78	剪定作業	トリマーを使用中、足元の石が気になり視線を外した際、誤って左手中指に刃が触れた。左手中指切創6針。
女	72	剪定作業	手鎌で刈った草を一纏めで抱えて運ぶ際、毛虫の毒毛により腕に発疹ができた。
男	84	機械草刈作業	固い草を刈るのに足に力を入れた際、大腿部分の筋を痛めた。
男	80	剪定作業	梯子の2段目に上って作業していた際、梯子がずれてバランスを崩し木に左脇腹をぶつけ打撲した。
男	84	機械草刈作業	蜂に右腕手首付近を刺された。※蜂の種類不明
男	72	剪定作業	蜂に右腕3ヶ所を刺された。※蜂の種類不明
男	74	機械草刈作業	マンホールから出てきたスズメバチに4ヶ所（後頭部、左手甲2箇所、左肘）を刺された。
男	72	機械草刈作業	マンホールから出てきたスズメバチに5ヶ所（唇、左頬、左脇腹、左手甲、左腕）を刺された。
男	72	機械草刈作業	草むらにいた土蜂に2ヶ所（右腕、右肩）を刺された。
女	73	草取り作業	作業中スズメバチに1ヶ所（左二の腕）を刺された。

(労災事故 2 件)

(前年度 0 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	77	造園作業補助	庭の草集め作業中にスズメバチに 1 ヶ所（左手親指付け根）を刺された。
男	75	工場作業補助	除雪車両の運転席後部のガラスを美装中、不安定な部分に片足が乗りバランスを崩しそうになったため、咄嗟に車から飛び降りた際、両足の踵を強く床面に打ちつけ両足の踵を骨折した。

(賠償事故 1 件)

(前年度 4 件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	70	屋外雑作業	センター駐車場にて会員が運転する社用車（ハイエース）でバックする際、後方の確認不足により駐車していた会員の自家用車の左後方に接触した。車に人は乗っておらず双方に怪我人なし。
男	81	機械草刈作業	チップソーを装着し作業していた際、約 13m 離れた道路を挟んだ隣家の窓ガラスに石が飛び窓の一部が欠けた。
男	79	機械草刈作業	チップソーを装着し作業していた際、地中から出ている灯油配管に気づかず切断した。すぐに気づいたため灯油漏れは少量。
男	75	機械草刈作業	小学校内での作業中、駐車場に駐車していた保護者の車両の窓ガラスを飛び石により破損させた。
男	75	屋外雑作業	一般家庭の犬走に防草シートを張る作業をした際、地中に埋まっている灯油配管に気づかずシートを固定するためのピンを配管に打ち込み 4 ヶ所に穴があき灯油が流出した。約 600 リットル 手掘りによる流出箇所の土砂入れ替え、水道管交換等実施。

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことはシルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

デジタル化やインボイス制度などの業務量増に対応するため臨時職員を継続して雇用し、組織体制の維持に努めました。

年 度 別	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
正職員数	4 人	4 人	4 人	6 人	6 人
臨時職員数	5 人	6 人	6 人	1 人	1 人
業務補助員数	1 人	0 人	0 人	1 人	1 人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令遵守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため北海道シルバー人材センター連合会の役員研修会に 4 人が出席しました。
- ③ 仙台市で開催された全国のシルバー人材センターの女性会員が集う「シルボンヌ全国大会（主催：全国シルバー人材センター事業協会）」に役員と職員の 4 人を派遣しました。
- ④ コミュニティセンター、元町地区センター、野幌公民館、あさひが丘自治会館、大麻公民館の 5 会場で地区懇談会を開催しました。

イ 財政の健全化

平成 27 年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

しかしながら、現行の「収支相償」の会計制度では、収益が費用を上回る単年度収支の黒字化は認められず、安定した財政運営を行うには、経営改革委員会による公益社団法人から一般社団法人への移行についての提言を受けました。

(補助金実績)

年度別	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
連合交付金	24,069 千円	25,329 千円	24,829 千円	23,339 千円	23,339 千円
市補助金	24,069 千円	25,329 千円	24,829 千円	23,339 千円	23,339 千円
村負担金	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円
合 計	48,638 千円	51,158 千円	50,158 千円	47,178 千円	47,178 千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の上昇及びインボイス制度に対応するため見積基準単価や事務費の改正を行いました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、新聞折込やチラシ配布等を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めたほか、隣接自治体である新篠津村と連携し、事業を進めました。